

通し番号	4793
------	------

分類番号	27-77-21-12
------	-------------

黒麹発酵飼料を添加した飼料がかながわ鶏の発育に及ぼす影響

[要約] 増体や飼料要求率の改善に効果があると言われている黒麹発酵飼料の採卵鶏育成用飼料への添加がかながわ鶏の生産性に及ぼす影響について検討した。黒麹発酵飼料を0.5%添加したところ、増体及び飼料要求率の改善は認められず、添加しない場合と同等の生産性を示した。

畜産技術センター・企画指導部・企画研究課

連絡先 046-238-4056

[背景・ねらい]

本県ではブロイラー用配合飼料の入手が難しいため、採卵鶏育成用飼料でかながわ鶏を飼養することが想定される。採卵鶏育成用飼料によりかながわ鶏を飼養する場合、増体や飼料要求率の改善に効果があると言われている黒麹発酵飼料の添加が生産性に及ぼす影響について検討する

[成果の内容・特徴]

- 1 平成27年10月22日餌付けかながわ鶏（シャモ833系統×岡崎おうはん）を餌付けから26日齢までは雄雌各300羽、27日齢から出荷までは雄雌各64羽供試し、表1のとおり飼料給与を行った区を対照区、採卵鶏育成用飼料に黒麹発酵飼料を0.5%添加した区を麴区とした（表2）。27日齢以降は、26日齢時の体重がほぼ均等になるよう各区を配置した。
- 2 餌付けから26日齢まではバタリーブルーダー、27日齢から出荷まで開放鶏舎の中大すう用ケージ（間口×奥行×高さ：906×756×545mm 1ケージあたり飼養羽数：雄4羽、雌8羽）で飼養した。不断給餌、自由飲水とし、雄は97日齢、雌は104日齢で出荷した。
- 3 26日齢までの発育調査において、雄では増体重、飼料摂取量、飼料要求率に有意な差は認められなかった。雌では飼料摂取量が麴区で有意に多く（ $P < 0.05$ ）、増体も多い傾向にあったが、飼料要求率には差は認められなかった。生存率は、雄雌とも有意な差は認められなかった（表3）。
- 4 出荷時の体重は雄雌ともに有意な差は認められなかった。また、飼料摂取量、飼料要求率、生存率にも差は認められなかった（表4）。

[成果の活用面・留意点]

- 1 添加率は黒麹発酵飼料メーカーの推奨値による。

[具体的データ]

表 1 給与飼料

日 齢	給与飼料	飼料成分	
		CP (%)	ME (kcal/kg)
0～7日齢	幼すう育成用 (餌付け用)	24.0	3,000
7～27日齢	幼すう育成用	21.0	2,900
27～70日齢	中すう育成用	17.5	2,850
70日齢～出荷	大すう育成用	14.0	2,750

表 2 試験区分

区 分	供試羽数	
	0～26日齢	27日齢～出荷
対照区	雄雌各50羽×3反復	雄雌各8羽×4反復
麴区 (黒麴発酵飼料0.5%添加)	雄雌各50羽×3反復	雄雌各8羽×4反復

表 3 発育調査 (0～26日齢)

区 分	体重 (g)		増体重 (g) 0-26日齢	飼料摂取量 (g/羽)	飼料 要求率	生存率 (%)
	0日齢	26日齢				
♂ 対照区	42.7	536.4	493.7	831	1.68	98.7
麴区	41.7	536.5	494.8	827	1.67	98.7
♀ 対照区	42.1	470.8	428.7	734 a	1.71	99.3
麴区	41.8	485.8	444.0	767 b	1.73	99.3

同一項目内において異符号間に有意差あり (p<0.05)

表 4 発育調査 (27日齢～出荷)

区 分	体重 (g)			飼料摂取量 (g/羽)	飼料 要求率※	生存率 (%)
	26日齢	97日齢	104日齢			
♂ 対照区	535	3,327	—	10,704	3.86	96.9
麴区	533	3,290	—	10,585	3.86	96.9
♀ 対照区	474	—	2,532	9,217	4.50	100.0
麴区	475	—	2,552	9,280	4.49	100.0

※ 飼料要求率は26日齢から出荷までの期間で算出

- [資料名] 平成 27 年度試験研究成績書
 [研究課題名] 地域銘柄鶏の飼養管理技術の確立
 [研究内容名] 飼料の違いが発育・肉質に及ぼす影響
 [研究期間] 平成 27 年度
 [研究者担当名] 平井久美子、引地宏二